

平成 27 年度 事業 計画

(1) ワーキンググループの開催

昨年度に引き続き、各部会ワーキンググループにおいて、それぞれのテーマについて検討を実施する。

(各ワーキンググループを3ヶ月に1回程度開催する。)

○素材関連ワーキンググループ

(反射、遮熱、断熱等に資する素材の研究、具体的活用の提案)

- ①保水性舗装 SWG において、保水性舗装の認証基準(案)を認証制度運営委員会に諮り、認証制度に反映していく。
- ②外断熱 SWG において、外断熱仕様の認証基準(案)を認証制度運営委員会に諮り、認証制度に反映していく。
- ③高反射材料の汚染促進試験方法 SWG において、アメリカで提案されている高反射材料の汚染促進試験方法の情報を参照し、汚染促進試験方法の基準化をしていく。
- ④再帰性反射材料 SWG において、認証の対象の可能性のある材料・技術について情報を収集し、再帰性反射の定義、評価項目ならびに評価手法について検討する。そのなかで人体影響評価の必要性ならびに評価基準について併せて議論し、コンソーシアム全体への提案に向けて SWG としての考えをまとめる。
- ⑤新たな素材の認証制度への反映の可能性について、引き続き検討する。
- ⑥各素材の熱負荷削減に係る実証試験については、熱負荷評価手法 WG と連携しながら、検討を進めていく。
- ⑦今後とも、様々な機会を捉えて、情報提供していく。

○熱有効活用・人工排熱低減ワーキンググループ

(潜熱化、排熱利用、省エネ・新エネ・代エネ技術(ESCO 含む)による対策手法の調査、活用)

- ①人工排熱の大気熱負荷削減効果の推奨制度の確立
 - ・空冷空調機用排熱低減対策装置による人工排熱削減効果および熱汚染対策効果の推奨方法
 - ・人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術を対象にした大気熱負荷削減効果の推奨方法
 - ・大気の直接冷却技術の調査
 - ・推奨制度の確立
- ②熱有効活用・人工排熱低減に関する情報収集・調査、検討、及び広報

○クールスポット創造技術手法ワーキンググループ

(緑化、水活用(噴霧、散水)等技術手法の研究、具体的活用の提案)

本年度は緑化技術や水を活用した技術について検討し、効果検証を行うとともに評価シートの取りまとめなどを進める。

- ① 緑化技術に関する評価項目の検討
- ② 緑化技術に関する評価手法の検討
- ③ 緑化技術に関する評価試験の検討
- ④ 緑化技術に関する評価シートの作成
- ⑤ 水を活用した技術に関する評価シートの検討
- ⑥ 新たな提案の検討
- ⑦ 情報交換の推進(随時)

○熱負荷評価手法ワーキンググループ

(熱負荷削減評価手法の検討)

今後、認証制度の対象となる技術の追加が検討される際には、関係のWGと連携して、当該技術に関するシミュレーション手法についての検討を行う。

○都市デザインワーキンググループ

(地域における「あるべき都市デザイン」の検討・提言)

- ① セミナー等の開催
- ② ワークショップで扱う検討課題
- ③ 平成24年夏に実施した大阪府クールスポット100選のホームページを継続する。
- ④ 府民が感じるクールラインの実態把握の検討

(2) 認証制度運営委員会の開催

認証制度申し込み技術に関する審査会を年2回程度開催する。また、検討中の認証技術等について各WGとの連携を図る。

(3) 企画運営委員会の開催

検討部会の進捗状況等について検討するため、年2回程度開催する。

(4) 理事会の開催

総会の開催にあたって、以下の検討を行い、総会に上程する。

- ・会議の進め方
- ・平成26年度事業報告、同収支決算
- ・平成27年度事業計画(案)、同収支予算(案)

(5) 平成27年度総会(平成27年6月)

以下の項目に関する決議。

- ・平成26年度事業報告、同収支決算
- ・平成27年度事業計画(案)、同収支予算(案)

(6) セミナーの開催

ヒートアイランド対策技術に関する啓発セミナー等を1～2回開催する。

(7) 部会活動等の周知

各部会で検討された内容等について、ニュースレターを発行する。(年1回程度)

(8) 展示会への出展

コンソーシアムの活動について、パネル展示などを通じたPRを図るため、「夏の暑さ対策展」(科学技術館[東京・北の丸公園])に出展する。

(9) ホームページの充実

コンソーシアムの活動成果等について、随時更新を行うとともに、ヒートアイランド対策技術認証制度において認証された技術等について公表する。

(10) 大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムPR用リーフレットの配布

普及啓発、検討部会への参画を促す。